

1999年10月15日

とおるとりえこのハーバード便り

創刊号

発行人：野村 亨、理英子

住所：# 2, 472 Broadway, Cambridge,
MA. 02138, U.S.A.

電話：1-617-864-1091

《アパートに入居》

みなさん、お元気でお過ごしでしょうか。私たちは去る10月10日正午に成田空港を発って、シカゴ経由で無事ボストン郊外のケンブリッジ市にあるハーバード大学に到着しました。最初はハーバードスクエアホテルという大学が予約してくれたホテルに宿泊し、アパート探しを始めました。亨の所属するハーバード燕京研究所(Harvard Yenching Institute)の事務所のエレヌという女性秘書が親切にいろいろ教えてくれて、どうやらアパートを見つけて去る10月13日に入居しました。このアパートは大学構内のすぐそばで、プロ



ハーバードヤードの雪景色
このハーバードホールが大学中で最も古い
建物だといわれている。
2000年1月15日

ードウェイという通りに面しているプレスコットホールという煉瓦造り四階建てのアパートの一階にあります。アパートの玄関は二重のドアで警戒厳重ですから安心です。ゴミを出すのは裏手に大きなポリバケツが並んでいて、そこにいつでも出せるので便利です。洗濯は隣の棟の階下に専用の洗濯場があり、住

民しか入れませんから安心です。また、アパートを出て直ぐ右隣にブロードウェイマーケットプレイスという大きなスーパーマーケットがあ

り、コーヒーショップもついており、夜は10時まで開いているのでとても便利です。アパートの部屋は20畳程のリビングと、8畳程のベッドルーム、それにもう8畳程の台所と、バストイレがついています。

幸いここは研究所の訪問研究員が住むためのアパートなので先住者が残しておいてくれた家具がそろっているので助かりました。ただベッドルームが大通りに面していて騒音が多少するので、リビングにベッドを移して、後は物置にしました。裏手はちょっとした庭で日当たりはよくありませんが、紅葉した木々が美しく見えます。台所には大きな冷蔵庫やオープンまでそろっているので便利です。理英子は、そのうちにシチューを作るのだと張り切っています。リビングには大きな暖炉があり、実際に使えるそうです。天井が高い

のでとてもゆったりした感じでした。我々は二人とも日本では大きすぎるので、着るものなどもこちらに来るとちょうどよいくらいです。家賃は一月1065ドル(約11万円)です。電話や電気ガスなどもすでに申し込みましたので使用可能です。お湯は24時間給湯です。暖房は華氏72度(摂氏22度)以下になると自動的に入ります。本当にこれなら冬でも室内は暖かく、Tシャツ一枚で過ごせます。

《大学付近の様子》

ハーバード大学はボストンの市内からチャールズ川を渡った郊外のマサチューセッツ州ケンブリッジ市にあります。ボストン市内にはまだ出掛けていませんが、地下鉄で15分程でダウンタウンに行けるそうです。赤線の地下鉄のハーバードスクエア駅を出ると、この町の中心ハーバードスクエアに出ます。三角地帯になっていて売店などがあり、一角に大きな大学生協があります。この付近には学生がたくさんいて、傍らのオーボンパンというカフェには終日学生たちがコーヒー片手に勉強しています。大学構内(ハーバードヤード)は芝生がとてもきれいで、そのうえに紅葉した落ち葉が落ちていて、その上を灰色



ハーバード燕京研究所本館の正面、中国風の獅子が置かれている。亨の研究室はこの裏手の別館にあった。
2000年1月15日

のリスたちが冬眠に備えて木の実をしきりにあさっています。建物は煉瓦造りや石作りの重厚な建物ばかりで、とてもいい雰囲気です。中央にはワイドナー中央図書館があります。これはタイタニック号で亡くなった学生の父母が寄付したとの

ことですが、とても立派な石作りの建物です。亨は教職員ですから勿論書籍の借り出しが可能ですが、理英子もカードを作ってもらったので、図書館が利用出来ます。この大学だけで十数個の図書館があるそうです。亨の所属する研究所は大学構内の北側、カーランド通りを挟んで北側にあります。この辺りも大学の建物が並んでいて、その中に大理石製の中国の獅子が並んでいるハーバード燕京研究所があります。この研究所は第二次世界大戦以前に北京の燕京大学とハーバード大学とが共同で設立した中国研究のメッカで、その蔵書は世界的に有名です。まだ図書館には入っていませんが、とても素晴らしいコレクションのようです。

この辺りは日本でいうと函館辺りの緯度になるので、東京辺りより一カ月位季節が進んでいるようです。昨日あたりは木枯らしが吹いて、師走のような感じでした。

《食物》

「アメリカの食べ物はなんでも大味だよ。」とよく言われます。たしかに分量は並大抵ではありません。大学側にあるアジアの麺類を食べさせるマ・ソバ・パン・アジア・ヌードルというファーストフードのレストランで焼きそばを注文すると、まず日本なら4人分ぐらゐの焼きそばが山盛りで出てきます。だからいつも理英子と半分づつでちょうどいいくらいです。またコーヒーもいわゆるアメリカンコーヒーという薄いコーヒーもありますが、どこに行ってもエスプレッソやカプチーノが飲めるので日本よりいい位です。

食料品は日本より安く、隣のスーパーでもいろいろなチーズが日本の半値で売られていま

す。また鮭の寿司パックなどもあり、とても美味しいです。
この地域の名物にニューイングランドクラムチャウダーというアサリのクリームシチュー
ー
があります。とても美味です。

《社会》

アメリカは多民族社会であるうえ、この辺りは世界各国から留学生や研究者が来ているので、とても多彩です。またアジアの食べ物もいたるところにありますから不自由しません。それに店員やその他の人々の人当たりがとてもいいので、日本にいるよりよほどストレスが溜まりません。車の運転もとてもマナーがよく、日本でよく見るバカ餓鬼の暴走族まがいの連中もほとんどいません。歩行者を見ると遠くから停まってくれて、こちらが恐縮するほどです。アメリカは治安が悪いといいますが、ボストンの下町のサウスエンドという所以外は概して治安はよいようです。ここも夜あまり遅くない限りは大丈夫です。まあ用心するに越したことはありませんが。

まだこちらへ来て1週間しか経っていませんが、どうやら落ち着いたという所です。またこれからときどきこのハーバード便りをお出しする予定です。乞うご期待。

《後記》

理英子は10月26日から一カ月あまり、近くのニューイングランドスクールオブイングリッシュという英語学校に通う予定です。また亨は10月25日～11月15日の間、京都大学の調査隊でネパール・ブータンへ出張します。 (文責：亨)



左：ケンブリッジの自宅暖炉の前、2000年2月19日
亨、満47歳最後の日。

右：大学の創始者ジョン・ハーバード像の前にて、左は理英子の友人、平井八重先生。
2000年1月19日

